

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	社会思想史B		
英文授業科目名	History of Social Thought B		
開講年度	2008年度	開講年次	1(2)年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	庄司 俊之		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ
JZM04216@nifty.com	

【主題および達成目標】
<p>思想は社会のなかから生み出され、また何らかの影響を社会のほうへ投げ返す。そうした相互作用や葛藤の歴史として社会思想史を眺めた場合、主題はおのずと決まってくる。思想をつうじて社会や歴史を学ぶこと。また、特定の社会的・歴史的状況のなかで、いかなる思想が要請されたのかを思考することである。</p> <p>本講義「社会思想史B」は、前期の「A」とはやや趣をかえ、尊厳死という現代を舞台とする思想問題を取り扱う。尊厳死といえば、医療の高度化など、現代社会の諸条件のなかで生じた問題だと思われがちだが、それをめぐる思想の歴史は言われるほど新しくない。本講義では、まず、尊厳死の何が問題とされているかを概観し、そのうえで、その思想的な源流を探っていく。これは、われわれの死生観がいかなる思想史的な岐路のうえにあるかを問う作業となるだろう。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
とくになし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
とくになし

電気通信大学 平成20年度シラバス

【教科書等】

テキストはとくに定めず、必要に応じてプリントを配布する予定である。

なお、最初のほうの講義で参考にするのは、中島みち『「尊厳死」に尊厳はあるか - ある呼吸器外し事件から』（岩波新書、¥735）であり、また、講義後半では、石川准・長瀬修編著『障害学への招待 - 社会、文化、ディスアビリティ』第5章「優生思想の系譜」（市野川容孝）を参考にする。

【授業内容とその進め方】

社会思想史Bは現代の尊厳死問題をとりあげ、その思想的な源流を追うことを主題とする。

講義では、最初いくつかの尊厳死事件を概観し、何が問題とされているのかを整理する。そのうち、簡単な日米比較を挟んだうえで、尊厳死運動という戦後の社会的・政治的な思想運動の軌跡を追っていく。さらに、尊厳死運動にとってのバイブルたる森鷗外の小説『高瀬舟』を検討して、尊厳死をめぐる論点が少しずつズレてきた歴史を把握したい。

そして以上を踏まえ、最後に西欧の長い医療思想史のなかで「死」がどのように位置づけられてきたか、その変遷を一気に概観する。これらの作業をへて、現代の安楽死問題がいかなる歴史的転機の上にあるかを理解することが本講義の目標である。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

2 / 3以上出席した学生を評価対象とする。評価は、最後に提出してもらったレポートによる。

レポートの課題は未定だが、講義内容の要約、あるいは講義と関連した自由研究など、いくつかのオプションを用意する予定である。

評価は、提出されたレポートが、テキスト等に照らして過不足なく適切な理解を示していればすべて「優」とする。また、自分の言葉で語りなおし、理解が血肉化していると認められ、とくに独創性のあるものが「秀」である。他方、テキスト等に照らしてレポートに不十分な部分があれば、その不十分さに応じて「良」や「可」となる。

【オフィスアワー：授業相談】

とくに設けない。質問等は講義後、もしくは電子メールで受けつける。

【学生へのメッセージ】

【その他】